



2013 FUJI CHAMPION RACE SERIES ROUND 2



REVIEW

Porsche GT3 Cup Challenge Japan 2013 ROUND 3



最初のレースは、開幕&第2戦がもてぎで行われたボルシェGT3カップ、第3&4戦がこの日、富士スピードウェイで行われた。今年もクラスは4つに分かれての混走となっており、朝の予選でCUP-IIクラストップは25 TEAM AYA 997のエディオン ニケ、CUP-Iクラスは77 PCJたろうのMUSASHI、オープンクラストップは総合7番手の23 Kremert Racing GT3の滝澤智幸、トライアルクラストップはポールポジションの66 KRMASコーポレーションのNao、フロントローに並ぶ2番手はチームメイトの38 KRMフルサポートGT3のAki MIYAZAKIといったグリッドになった。気温19度で薄い雲がかかってはいるものの、晴れ間ものぞく絶好のコンディションの中、正午のスタート時刻となった。ポールポジションの66 Naoが残念なことにミッショントラブルでグリッドに付けずに、リタイアとなってしまった。ポールが居ない状態でスタートがきられ、全車予選順にきれいに1コーナーへ入っていくが、オープニングラップには38 MIYAZAKIと後ろにつく7 D'station HAI997の星野敏のトップ争い。ここでトップに出た7 星野が周回を重ねるごとに徐々に2位以下を引き離しにかかる。レース中盤になると、3番手や5番手争いが激しくなり、各所でバトルが繰り広げられている。第3戦を制したのは7星野だった。オープンクラスでは総合でも4位に入った23滝澤が優勝、CUP-Iは77 MUSASHI、CUP-IIは25 エディオン ニケとなった。



RESULT リザルト トライアル

Rank	No.	Name
1	7	星野 敏
2	26	KENJI NAKAHARA
3	6	ARTE ROSSI
4	12	YO-YO
5	38	Aki MIYAZAKI



RESULT リザルト CUP-I

Rank	No.	Name
1	77	MUSASHI
2	3	清水 正智
3	95	丸山 和道
4	36	陳 筱天



RESULT リザルト オープン

Rank	No.	Name
1	23	滝澤 智幸
2	10	アラチギョウザ
3	9	小林 賢二
4	20	レッドキャッスル
5	24	尾崎 浩一
6	72	タカ タカシ



RESULT リザルト CUP-II

Rank	No.	Name
1	25	エディオン ニケ

REVIEW

Porsche GT3 Cup Challenge Japan 2013 ROUND 4



第3戦に引き続き、14:40から行われた第4戦、このレースのレギュレーションで、スターティンググリッドは、第3戦決勝中のベストタイムで順位が決められる。ポールポジションの座を仕留めたのは第3戦優勝トライアルクラスの7 D'station HAI997の星野敏、フロントローに並ぶのは26 Tec Racing GT3 Cup KENJI NAKAHARA。オープンクラスのトップは6番グリッドの23Kremer Racing GT3 滝澤智幸、CUP-Iは95 DOUSINKAI997CUP 丸山和道、CUP-IIでは25 TEAM AYA 997のエディオン ニケが各クラスのトップグリッドからのスタートとなっている。ローリングスタート形式でスタートがきられ、グリッド順位順に1コーナーへ各マシンが消えてゆく、周回を重ねるごとに、上位2台は徐々に差を広げ、独走態勢にもっていく。その後ろで繰り広げられた激しい3位争いのバトル、ラスト2周になって、5番手グリッドから追いつけてきた12 Adenau GT3 CUPのYO-YOが3番手にあがり、そのままチェッカーを受けた。クラス別ではオープンクラスは23 滝澤が逃げ切り、CUP-Iクラスは77 PCJたろう MUSASHIがオープニングラップで前に出て、そのまま優勝。CUP-IIクラスは25 エディオン ニケの優勝となった。



RESULT リザルト トライアル

Rank	No.	Name
1	7	星野 敏
2	26	KENJI NAKAHARA
3	12	YO-YO
4	6	ARTE ROSSI
5	38	Aki MIYAZAKI



RESULT リザルト CUP-I

Rank	No.	Name
1	77	MUSASHI
2	95	丸山 和道
3	3	清水 正智
4	36	陳 筱天



RESULT リザルト オープン

Rank	No.	Name
1	23	滝澤 智幸
2	10	アラチギョウザ
3	9	小林 賢二
4	20	レッドキャッスル
5	72	タカ タカシ



RESULT リザルト CUP-II

Rank	No.	Name
1	25	エディオン ニケ

REVIEW

ROADSTER CUP NC DEMIO RACE ROUND 2



ロードスターカップNCとデミオレースは全4戦で行われ、今シーズン2戦目。予選で2'09.939とあとわずかでレコード更新というタイムを出した64 Joy☆abMoty'sNCの芝本淳がポールポジション、121チーム41☆NC☆RSのBlackmore Ottoが2'11.027でフロントローに着く。デミオでは、75 145デミオ改WithSKRの西山隆が2'19.721でクラストップからのスタートとなる。12:50、スタートが切られトップ2台の激しいバトルとなるが、ダンロップコーナーで121 Blackmoreが痛恨のスピで順位を最後位まで下げてしまう。代わって2番手に上がった8 ドライダー☆ロードスター CKEの菊池聡、3番手には21 新井μおやぢRロードスターの新井敏克が2秒間隔で周回を重ねていく。しかし、その後ろでは激しい4番手争いが続いているといったレース展開。8週のレースは64 芝本が、デミオも75西山がそのまま逃げ切りポルトウウィンで勝利を手にした。レース終了後のコメントでは64芝本は「今日はマシンの調子も良く、予選から乗っていました。初めての優勝なのでとても嬉しいです。これからもこの位置にいられてシリーズチャンピオンが獲れるように頑張ります」と話し、75西山は「スタートで前のクラスのロードスターとの間も丁度よく空いて、そこからは自分のペースで上手いこと走りました。勝ててとても嬉しい」と話していた。

RESULT リザルト RSC NC

Rank No.	Name
1	64 芝本 淳
2	8 菊池 聡
3	21 新井 敏克
4	18 ランマン
5	6 横山 護
6	121 Blackmore Otto

RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank No.	Name
1	75 西山 隆
2	24 オブチ マサヒト
3	34 常盤 岳史

REVIEW

ROADSTER CUP NA6/NA8/NB8 ROUND 2



3クラス混走のロードスターカップレース、予選はNB8クラス100 CKエンジニアリングNB8の芹澤祥宏とNA8クラスの230 samsμNA8ロードスターの石渡幸治が、共に2'08.161の同タイムで予選トップだが、同タイムの場合、先にタイムを出した方が前のグリッドという規則の元、総合1位は100 芹澤でポールが決まり、フロントローに並ぶのは230 石渡幸治となった。NA6クラスのトップは総合でも5番手に入ってきた7 大山オートVARYアクレNA6の茂木文明の2'08.512。上位11台が1秒以内という今回も白熱したレースになりそうな予選結果となっている。決勝レースはスタート直後からの激しいバトル、各所で抜きつ抜かれつの展開の中、1周目にトップで戻ってきたのは3番手からの11 JoyアクレMotys☆NB8 戸田裕一、100 芹澤を徐々に引き離してゆく。その後ろの激戦をすり抜けて3位には最終ラップで22 ファニーSオリーブNB8制動屋の山平健太郎が表彰台圏内に入った。NA8優勝は230 石渡、NA6は7 茂木が逃げ切った。NB8で優勝の11戸田は「予選ではマシントラブル、決勝までに治してもらったので何とか前に行けました。良かった!」とコメント。230石渡は「他のクラスとのマシン性能差が大きくて辛かったのですが、開幕戦と違って天気がよくてよかったです」と話し、7茂木は「NB8におおられまくってキツかったです。クラスの中では前に行かれたけれど、隣にマシンが並ぶとつい頑張ってしまいました」と話していた。

RESULT リザルト RSC NA6

Rank No.	Name
1	7 茂木 文明
2	23 山川 穰
3	76 辻本 均
4	999 鳥居 武史
5	27 野木 強
6	16 野田 宗男

RESULT リザルト RSC NA8

Rank No.	Name
1	230 石渡 幸治
2	88 山田 健介
3	26 高市 桃介
4	81 正木 佳

RESULT リザルト RSC NB8

Rank No.	Name
1	11 戸田 裕一
2	100 芹澤 祥宏
3	22 山平 健太郎
4	3 羽入 大輔
5	75 澤田 薫
6	33 田辺 浩一



2戦目となるSuper FJ/FJ1600、まだ富士山も見えていた午前中の予選では、Super FJクラス 36 玉三郎EDアルビRT岩本10Vの太田達也が1'51.160でポールポジションを決め、フロントローには22 ペースメーカー150WM10Vの赤堀憲臣が並ぶ。FJ1600クラスは20 IDI・ROMANTEC・95 柿島昭一がトップとなっている。15:35の決勝スタート時には、雲がかなり多くなってきて、風も冷たくなってきた。決勝レースは、ボールの36 太田が好スタートを切り、他のマシンをラップごとに引き離してゆく。その後ろの2番手争いはかなり熾烈、2周目に3番グリットから上がってきた41 B-MAX・エンドレス10Vの今井龍太が2番手に上がった。6番手スタートの5 LTVイエローダック茶畑10Vの上別府将司がその後ろに付けてくる。しかしレース中盤には7番手スタートの若干17歳 32 ART GP JAPANの石坂瑞基が徐々に追い上げ、2位でチェッカーを受けた。3位には41今井。FJ1600も20柿島と7 WRS SASAO SK20 笹尾徹也の激しいトップ争いの末、20柿島が優勝した。レース終了後のコメントは36 太田が「スタートは一瞬良かったものの、少しスピードが落ちたりもしてしまいました。でも必死に引き離しにかかろうと走っていました。この調子でこれからも頑張っていきたい」と話し、20柿島は「チームがマシンの調整を上手くやってくれたおかげです、大変だったけれどとても楽しいレースでした!」と話していた。

RESULT リザルト Super FJ

Rank	No.	Name
1	36	太田 達也
2	32	石坂 瑞基
3	41	今井 龍太
4	22	赤堀 憲臣
5	5	上別府 将司
6	8	野村 大樹

RESULT リザルト FJ1600

Rank	No.	Name
1	20	柿島 昭一
2	7	笹尾 徹也
3	38	原田 健



この日最後のレースとなるのは、ロードスター/86&BRZクラス。昨年後半から新設された86&BRZも今回は7台のエントリー。レンタルマシンが5台用意されたことで、参加もしやすくなり、初めてレースに出場するドライバーもエントリーしている。予選でトップタイムを出したのは86&BRZクラス 77 CLUB PANTERA 86の山内正義が2'06.012の記録タイムでポールポジション、そこに並ぶのは55 86Racer's藤巻号の藤巻靖幸。ロードスターNA6クラストップは昨シーズンのチャンピオン 1 コーンズIDIロードスターの雨宮恵司が2'09.628のタイムで総合6番手からのスタート。少し雨が落ちてきた16:35、スタートが切られた。オープニングラップから1コーナーで波乱の幕開けとなり、86&BRZクラス2台がここでリタイア、その後77山内、55藤巻、3番手に上がった52 86Racer's森川号の森川が淡々と周回を重ねていく。総合4番手から連なるロードスタークラスの争いはかなりの混戦。レース後半になりトップ争いの1 雨宮と18 コーンズIDIロードスターの大野俊哉、少し間を空けて3位争いの4台と目の離せないレースが繰り広げられた。最終周、ストレートに戻って来た1雨宮と18大野がゴール目前で2台が並び、最後までわからない展開に。チェッカーラインでは0.061秒差で7雨宮が前だった。86&BRZ 77山内は「路面と天候のおかげで勝てました。この調子で頑張ります」と初優勝を喜んでいた。ロードスターの1 雨宮は「勝てたのは嬉しいですが、とても大変なレースでした」と話していた。

RESULT リザルト ROADSTER

Rank	No.	Name
1	1	雨宮 恵司
2	18	大野 俊哉
3	8	福永 健二
4	24	田辺 良輔
5	43	大井 正伸
6	3	秋月 義雄

RESULT リザルト 86&BRZ

Rank	No.	Name
1	77	山内 正義
2	55	藤巻 靖幸
3	52	森川 誠一
4	50	奥田 昭宏